

しまたに みなみ
嶋谷 南さん

キリバス（2018年派遣）

2021年6月27日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています



若年妊娠 予防へ調査

高校生の時に「国際協力を仕事にする」と心に決めた。考えたのは、国際協力を仕事にするに当たり、どの職種が一番役にたつかということ。「医療」ではないかという結論に至り、その中でもお母さんと赤ちゃんが大好きだったので、山口大に進学し助産師の資格を取得した。卒業後は分娩件数の多い病院に就職し、助産師としての経験を積んだ上で海外に飛び出した。

国際協力機構（JICA）海外協力

隊として派遣されたキリバスでは、若年妊娠予防活動を展開した。2年間の限られた時間でより効率的・効果的に活動するためにも、派遣後すぐに若年妊娠の実態調査をした。これにより課題が明らかになり、課題を配属先のスタッフと共有することで、一緒に課題解決に向けた活動を行うことができた。妊娠について若者に考えてもらう妊婦体験ジャケットは、その活動の一つである。

帰国後は、JICA 青年海外協力隊事務局、JICA 人間開発部にてジュニア専門員として働くなど、JICA 事業に携わった。

現在、子育てに専念するためいったん国際協力の仕事から離れることになってしまったが、子育てが落ち着いたいたら、国際協力の仕事に再挑戦したいと考えている。「子育て」と「国際協力を仕事にする」一。この二つを両立できる道を模索し、これからも、国際協力を通して「世界の全ての女性が安心して暮らせ、自分の可能性に気づき活躍できる社会づくり」に貢献したいと考えている。



妊婦体験ジャケットを着用する現地の若者